

# 総務産業常任委員会 一般会議

○平成28年7月20日(水)／商工会議所との一般会議  
「市への要望について」「産業振興」「観光」

## 西脇市議会総務産業常任委員会と西脇商工会議所との一般会議議事録

開催日時；平成 28 年 7 月 20 日（水）14：00～15：50

1. 場所；西脇商工会議所 2 階 ホール

2. 出席者；【西脇商工会議所】

齋藤会頭、生田副会頭、大西副会頭、藤本副会頭  
宮崎専務理事、小林総務企画委員会委員長、長井副委員長  
浅尾産業経済対策委員会委員長  
藤岡地場産業振興委員会副委員長  
片岡商業・街づくり委員会委員長、頃安副委員長  
北川観光文化交流委員会委員長、富山副委員長

【西脇市議会】

村岡総務産業常任委員会委員長、高瀬副委員長  
古西委員、東野委員、岩崎委員、林委員、寺北委員

3. 内容

1) 市への要望について

<市内事業者の取引拡大>

- ・今年度から来年度にかけて、市内 6 つの認定こども園が整備される。比延こども園は既に発注され、高砂の T 社が 4 億 1 千 900 万円で受注した。地元の企業を下請けで 20%～25% 使うこととなっているが、金額的に採算が合わないことが多い。また、市内には、この規模の事業に応札できる資格を有するのは、1 社のみである。発注を 1 億円以下に分割してもらえれば、市内業者の参入機会が増えるのでお願いしたい。（会議所）
- ・認定こども園は、市が発注者ではないということを確認した上で、発注者である地区等が、発注条件等に関して考えることが大切。（市議会）
- ・市は発注者ではないが、出来るだけ地元の業者に仕事が回ってくるよう指導をしてもらいたい。（会議所）

<用途地域指定の見直し>

- ・事業者が事業所の拡張をしようとしても、用途地域指定が足かせになってできないケースが多く、雇用拡大に繋がらない。規制緩和や特別指定区域制度の適用など真剣に考えて欲しい。（会議所）
- ・用途地域指定の変更は、当該の事業者にとってはメリットがあるが、一般市民は固定資産税が増える等のデメリットも生じるため、その区域全体の合意を得るのが難しく、今日に至っているという経過もある。

（市議会）

- ・ 地場産業以外の業界では、用途地域指定の存在が非常に大きく立ちはだかっている。例えば愛媛県の四国中央市は、市街化調整区域を廃止した施策をとっている。このように思い切った法律の見直しをすることにより、業界の活性化に繋がると考える。(会議所)
- ・ 四国中央市などの例をみると、農振農用地の関係で農地の用途変更は国が動いてくれないとどうにもならない。(市議会)
- ・ 市の都計審では、昨年10か所の用途変更を行っている。(会議所)
- ・ ほ場整備したところは、用途変更はできない。(市議会)
- ・ 地籍調査は西脇ではまだ16%の進捗である。一般的に地籍調査すると土地の面積は増えるが、固定資産税額も増える。(会議所)

## 2) 産業振興

- ・ 定年で会社を辞めたが、それまでのノウハウを活かして事業を起こしたいと思っている者もいる。そういった人が事業を起こしやすい環境の整備が大切である。(会議所)
- ・ 起業創業をサポートする「創業塾」の受講生を募集しているが、実際の応募は少ない。(会議所)
- ・ 繊維に特化した大学は少数であり、西脇市に専門学校等の設立を望む。また、使わなくなった建物等を活用して、人材不足となっている繊維加工技術などを教える場が欲しい。(会議所)
- ・ 大学などと提携して西脇の企業での研修で単位が取れるなどの産学連携も考えられる。(市議会)
- ・ M i r a i e で開催されている、女性起業家対象の教室は人気がある。  
(市議会)
- ・ 播州織の展望はこれからどうなのか。(市議会)
- ・ 従来のテキスタイルを受注して物を売る発想から、自分たちでものづくりをして製品化するブランドの時代になっている。播州織業界各社も、その動きが見られるようになってきた。これをチャンスと考える。生地ではなく最終製品。織物そのものにこだわると、前へは進めない。玉木新雌さんを例に、これから新しい時代に向かって、若い人の力と技術を融合させてモノを創っていくことが大切。(会議所)
- ・ もっと若者の声を聞く機会や、住みたいと思う土地の政策が必要。また、水道料金も、水道の利用が少量の若者に配慮が欲しい。(会議所)

## 3) 観光

- ・ 「観光協会」において話し合いの場を持っても、区の代表ばかりで民間が少ない。これでは中身のある会議にならない。わずか3人しかいない
- ・ 民間の人を増やしてもらいたい。次にビジョン、長期計画を立てて、しつ

- かりと人材を育成する。まずは、そのような組織体制にしなければ、場当たりのようになってしまい、計画的な観光振興は難しい。(会議所)
- ・ 市外から観光に来る人のために、西脇市駅からロイヤルホテルまでの道(やすらぎの道)を、もっと北側に向けて歩きやすいように整備してもらいたい。(会議所)
  - ・ 観光協会等において、若者等を中心とした人材を育成することが最重要課題。官だけに頼っていたのでは絶対にうまくいかない。(会議所)
  - ・ 昨年、ロイヤルホテルでは年間25,000人の宿泊があり、観光目的の宿泊は5%だった。また、外国人は3,800人だった。観光目的を増やす必要がある。(会議所)
  - ・ 従来観光といえば、「見て食べて」だが、余暇活用全般を捉えて、西脇にきてもらうアイデアが重要である。(市議会)
  - ・ 産業界の意見をくみ取り発信する。(会議所)
  - ・ そのためには、いかに情報発信力をつけるのか。(若い人材の育成)  
(会議所)
  - ・ 観光協会の財源として、町の世帯会費から一人100円とか、個人会費一人1,000円の観光協会会費などでお金を集めているレベルではダメだ。  
(市議会)
  - ・ 釣り針や織物などで、自分オリジナルのものを創作できれば人気が出ると思うが、できないだろうか。(会議所)
  - ・ 西脇商工会議所のホームページにはfacebookがない。(市議会)
  - ・ SNSを中心とする情報発信にお金と知恵を集中させるべき。(会議所)
  - ・ ホームページやfacebookを活用することが大切。特にfacebookは費用もかからず、お客様と双方向の関係が築ける。(会議所)
  - ・ 若い人達を大切にす施策が必要。(会議所)
  - ・ 若者の情報を得ながら一緒になって情報発信していくことが必要。  
(会議所)
  - ・ 本懇談会を年一回ぐらい開催したい。(会議所、市議会)

以上